

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	理工学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学生課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 体系的なカリキュラムについて、大学院委員会で検討し、2013年度までにカリキュラムを改訂する。	→大学院委員会の開催回数、各年度に提示されるカリキュラム。	C	B	B	A	A
2. 他の研究機関や大学との大学院連携を強化し、専門教育の充実を図るために、相互セミナーの開催や共同研究を行う。	→それぞれ連携先に行った学生の人数、学生の研究成果(学会発表や論文発表件数)、相互セミナーや共同研究の件数。	B	B	A	A	A
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか コースワークについては各専攻会議(毎月)で、研究科全体に関することは大学院委員会(年間5回)でそれぞれ検証している。ここで、必要な授業科目の開設状況を調査し、順次性のある体系的配置を行った。また、入学時の履修登録の際に指導教員が履修指導を行う制度を2012年度に整備し運用している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2011年度から経営戦略研究科と共同でMOT(Management of Technology)科目「研究開発型ベンチャー創成」を開講することになり、キャリアパス支援とすることができた。学生への周知をはかる必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 現在の6専攻から2015年度は学部の3学科増設されるので、新学科に対応する専攻を設置するためにそのカリキュラムの検討を開始する。また博士課程後期課程のコースワーク導入について検討する。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科として他大学、研究所などと連携大学院を形成し、これらの機関に毎年学生を配属している。また、各専攻で外部講師を招いて学内セミナーを積極的に行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 理化学研究所に1名、Spring-8に6名、産業技術総合研究所に7名、兵庫医科大学に6名の学生を配属した。2013年度は27回の外部講師による学内セミナーを行った。また、2013年度の学生の学会発表数は137件だった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続きは学外との連携を行う。	☆
		その他	☆
備考			☆